

13 自己点検・評価等に関する事項

現在、日本の高等教育は、マス段階からユニバーサル段階への移行を展望する局面にある。大学へは様々な背景を備えた学生が進学しており、大学教育に求められるニーズも多様化・細分化している。その一方で少子化やグローバル化が進行する中、大学教育の質（水準）を維持・向上し、国際的に通用する人材の育成が重要となってきた。

こうした中、本学は、私立大学としての自主性、自律性を重んじつつ、建学の精神を具現化するために、個性豊かな特色ある教育研究活動を展開し、有為の人間を育成するとともに、学術文化の向上や社会の発展に貢献することをめざしている。その実現のために、教育研究の向上を図り、自らの活動を点検・評価し、独自の方法で大学の質（教育研究の

質）を自ら保証（内部質保証）することが必要である。

こうした認識のもと、本学としては「機関（組織）としての自己点検・評価」と本学の教育研究等を支える「教員個人の諸活動に対する自己点検」という2つの視点から、教育研究水準の改善・向上に努めるとともに、大学の質保証システム確立のための取り組みをおこなった。

1 自己点検・評価について

2011年度から、内部質保証システムの1つの柱である「機関（組織）としての自己点検・評価」として、「自己点検・評価制度」を、毎年度、全学的に実施している。

2011年度と同様、学内各機関（組織）が自らの判断と責任においてその諸活動について点検・評価をおこない、その結果を「自己点検・評価シート」にまとめた。そのシートを基に全学大学評価会議が全学的かつ客観的な立場で点検・評価し、その評価結果をそれぞれにフィードバックし、改善活動を推進した。また、2011年度からの自己点検・評価において、単一組織だけでは取り組むことができない全学的な課題を抽出し、全学大学評価会議および部局長会で確認した後、関連する組織が連携し、改善に取り組んだ。

さらに、自己点検・評価の結果を社会に公表するため、「大学評価に係る公表の方針」を策定した。加えて、この制度を実質化させ、本学の独自性を高めるとともに評価に係る負担軽減を図るため、自己点検・評価シートを改善して2013年度に繋げることとした。

2 教員活動自己点検について

教員の教育研究等の活動は、個々の個性、専門性、独創性等によって支えられている。そのため、教員は自らの意思と責任で、自身の活動を点検し、教育研究等の活動の維持・改善・向上に意欲的に取り組むことが必要である。

こうしたことから、本学では、内部質保証システムのもう1つの柱である「教員個人の諸活動に対する自己点検」として、2011年度から全ての専任教員を対象とした「教員活動自己点検」を実施している。2012年度は、制度総括を行い毎年度制度の検証および改善をおこなうことを前提に、以後も継続的に実施することとした。

また、教員活動自己点検をより実質化することをめざし、「点検結果の活用に関するガイドライン」を策定した。加えて、各教員がおこなう教員活動自己点検のシート入力作業の軽減、効率化を目的とし、Webシラバスや研究業績情報ともリンクした「教員活動自己点検システム」を新たに構築し、運用を開始した。

3 第三者による評価について

1 認証評価機関による評価

学校教育法の改正により、2004年度からすべての国公立大学は7年に1度（専門職大学院は5年に1度）、国によって認証された評価機関による評価を受けることが義務づけられている。

本学では、教育研究活動等の質を保証し、広く社会の理解と信頼を得る上で、こうした認証評価機関による評価は

重要であると認識している。

このような認識から、大学としては2006年度に、短期大学部としては2010年度に大学基準協会による認証評価を受審し、適合認定を受けている。次期は、大学、短期大学部ともに2013年度に受審することとし、2012年度は、本学が推進している諸活動を詳細に点検・評価し、その結果を「点検・評価報告書」として取りまとめ、大学基準協会に提出した。

また、法科大学院においては、2009年度に大学基準協会による認証評価を受け、適合認定を受けている。2012年度は、その際に受けた助言等について計画的に取り組み、教学面における改善を図った。

2 格付けの取得・維持

本学校法人は学外機関による評価及び学外への情報開示の一方策として、2005年4月に株式会社格付投資情報センター（R&I）から「AA-（方向性：安定的）」の格付けを取得した。2012年度においても、格付けの調査を受け、その結果、同様の格付けを取得し、同年9月に学外へ公開した。

本学校法人の格付け「AA-」は、21段階中上位4番目にあたる評価であり、格付けの主な事由としては、長期的視野に立った堅実な財政計画に沿った運営により良好な財務を維持していること、2013年度入試の学生募集については、文学部臨床心理学科の新設等によって志願者が増加したこと等が挙げられている。また、2015年4月には国際文化学部の新設キャンパスへの移転及び農学部の新設が予定されるため、これらの動向についても注目されている。また、キャリア教育については、全学的に積極的に取り組み、就職の状況については、学部・学生担当制の導入によって就職率を引き上げることができたことも評価されている。さらに、2012年9月には、新しいロゴマークやスローガンを導入する等、プラス要因として挙げられている。

